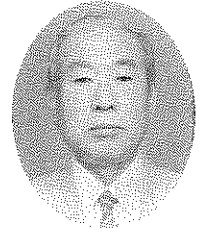


PREFACE

会誌について

前田正雄



表面科学という言葉はまことに判りにくいものであるらしい。というのは専門分野や、各自がかかえている当面の問題によってそれぞれイメージするところが異なるためであると思われる。会誌の内容が特定の分野に偏っているという批判内至は不満を時に耳にすることがあるのは、この分野の持つ上述のような性格によるのであろう。

かつて Brattain が述べたように、この分野では厳密な解析に堪えるデータを得ることがきわめて困難であったが、最近分析法の進歩や、研究対象の物性制御の技術が急速に進展して、Brattain の悩みは大幅に解消しつつある。このことは一方において一見多様に見える表面科学の概念を統一的に整理し、体系化する希望をもたせるものである。

本会は、表面科学のこのような現状の下で、基礎科学としての表面科学を確立しようという意図の下に設立されたものと理解している。このように考えれば会誌の性格も、その目指すところも自ら明らかである。会誌は上の意味での情報を会員に提供することが先づ現状では最も大きな目標であろうと考えられる。

一方学会誌としては、質の高いオリジナルな論文を掲載することも重要な使命であることはいうまでもない。この場合に求められるのは、サーキュレーションの広さと、掲載の迅速性であらう。

前者は会誌の編集に携わっておられる方々のご努力によって着々と成果をあげているが、後者については一時も早く bi-monthly, 欲を言えば月刊誌として発展することが望まれる。表面に関心を持ってほぼ 30 年を過ぎて来た筆者として、本会誌が益々発展し、多くの読者に親しまれる日の一日も早いことを願うものである。

(北海道大学工学部)